

## 8月号 世界から見た日本の労働

— ILO・国際労働基準を生かそう —

読み合わせ学習会をしましょう！

### 世界の動き、議論に逆行する「安倍雇用改革」(小田川義和)

労働基準の原則を確認する「社会正義宣言」  
ディーセントワーク(働きがいのある人間らしい仕事)の実現は世界の常識  
完全雇用=労働者が安定した生活を維持しうる雇用  
ILO活動の特徴は「政労使3者」構成、安倍政権の「閣議決定」は労働者代表が排除

### 全国学習交流集会in千葉 10/11~13

ひきよせよう 憲法かがやく社会 ひろげよう 学びの仲間

#### 学習の友とわたし

山下 洋一

国民多数の反対の声を押し切り、集団的自衛権の行使容認にむけた解釈改憲を内容とする閣議決定がなされました。この決定は、日本国民を守ることとも世界の平和に貢献することとも関係ありません。米国の戦争に盲目的に従い、自衛隊を米国の傭兵として差し出す亡国の政治に他ならないと思います。憲法解釈を政府がいかようにもできることを意味し、独裁国家への道を「静かに」進んでいるかのようです。決して容認することはできません。

今回の解釈改憲が立憲主義の危機であることは間違いありません。しかし、まだ立憲主義が機能しなかったと決めつけるのは早計です。憲法は、その内容に反する政府の行為を自動的に排除するようにはできていません。あくまでも国民の不断の監視によって政府の態度を改めさせる(政府の構成を変えることを含めて)ことができるかどうかにかかっています。選挙や司法の場、表現

を通じて、政府による違憲行為を食い止めるプロセスはこれからです。憲法はそのためのしくみを用意してくれています。「解釈改憲を食い止められなかった」と意気消沈したり絶望したりすることこそ相手の思う壺です。

憲法解釈の重大な変更になると考えるすべての人々に、自衛隊や安全保障に関する見解の違いを超えて、解釈改憲を撤回させる輪に加わってもらいましょう。現に、自民党や自衛隊の幹部だった方々、改憲派の憲法学者や歴代の内閣法制局長官などからも、続々と批判の声が上がっています。それだけに、過去の政府見解がいかにか憲法を蹂躪しているかだけではなく、自衛隊合憲論を含む過去の政府見解の立場をも正確に学び、今回の解釈改憲の亡国性を重層的に明らかにする論陣が我々には求められていると感じています。

あしたの風では「学習の友と私」を掲載いたします。学習の友を購読していただいている方々に、学習の友との関わりをお聞きします。これから原稿依頼がありましたら、どうぞよろしく願いいたします。

学習の友  
8月号学習会

◎日時 8月19日(火)18時30分より

◎場所 学習協事務所にて

※ぜひ、多数のご参加をお待ちしています。

